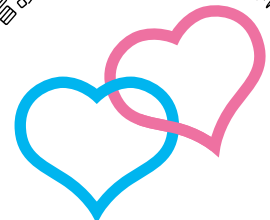


優れた才能や能力を持つ人が
機会を得て活躍する事。

- 新年のご挨拶 P2~P4
- 研修報告 P5
- 「おじゃまします」 vol.6 いがらし内科外科クリニック P6・P7
- 「おじゃまします」 vol.7 北福島医療センター P8・P9
- 青年部コーナー P10
- 選挙コーナー P11
- 連盟クイズ P12

発行所／福島県看護連盟 郡山市本町1丁目19番8号 生天目ビル1階 TEL (024) 973-8819 発行責任者 本内敦子

看護の心を、みんなの心に



新年のご挨拶



福島県看護連盟会長

本内敦子



明けましておめでとうございます。

新年を迎えるたびに、今年は穏やかで安心して過ごせる年にしたいと皆様が願うことでしょう。去年は、コロナウイルス感染症が急増し、一喜一憂しながら感染者数を注視していました。ワクチン接種の効果と3密対策があつてか、後半は下火になりました。しかし、今度は「オミクロン」という変異株が私たちを恐怖に陥れようとしております。医療従事者の皆様におかれましては、感染症に対する対応に気の抜けない状況ではないでしょうか。これまで同様一人ひとりの感染予防対策が医療従事者の負担軽減になります。

さて、今年の一文字ご挨拶は、政「まつりごと（以下、政）」を取り上げたいと思います。「政」は古代においては、神をまつり神の意を知ってそれを行うことが、そのまま国を統治することから君主・主権者がその国の領土・人民を統一し治めることを意味したということです。古代から人々の暮らしに政が重要だったのです。急速に変化する現代の生活にはなおさら政の影響は大きく、看護職の現場の問題を解決するためにも非常に重要です。

昨年も令和4年度予算要望書を厚生労働大臣に提出いたしました。県内各地域からの看護問題に取り組んでいただけるよう依頼しました。看護連盟は、看護職の現場の声を政に反映するために、看護職員を国政に送り続けています。

今年は、「寅」年です。「虎は千里行って千里帰る」ということわざがありますが、虎は1日に千里を往復できるという、勢いが盛んなことを表しています。

夏には第26回参议院議員選挙があります。

寅年にちなんで、皆様と共に精力的に取り組んでまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年の
一文字

看

日本看護連盟会長
大島敏子



2021年は看護が適正な評価を受けた年、「看」を選びました。。

「看」は、手と目を合わせた象形文字。目の上に手をかざしてものを「みる」から「見抜こうとする」「見守る」になり、次に手を直接さしのべ、穏やかな気持ちでゆったりと「みる」。不安を取り去った後に、開かれた心の中を「みる」となる。

「看る」は、人が人を思いやり、関わろうとする。

太陽が温めた石を、痛む場所にそっと当てる。冷たい川の水に浸した布を腫れた患部にのせる。果実を絞ってゆっくりと含ませる。それでも苦しむ人には、優しく撫でる。

「看」には、起こっている現象を我が目で見つめ、近づいて触れてみる。そして、相手の心の声に耳を傾ける看護の原点がある。

今年の
一文字

進

福島県看護協会会長
今野静



新年あけましておめでとうございます。

今年の干支「壬寅(みずのえ・とら)」は「冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれる」というイメージとされています。

看護職は、これまで新型コロナウイルス感染症にしっかりと対応してきました。今、その取り組みが評価されています。

今年は、看護界にとって華々しく新たにスタートする年になると確信しています。そのためにも力強く前に進み、素晴らしい一年にしたいと思っています。

2022

Happy
new year !

今年の
一文字

信



衆議院議員

あべ俊子

お健やかに新春をお迎えのことと存じます。新年の清々しい空気に、国会議員としての初心が熱く思い起こされます。

昨年の解散総選挙では大変お世話になりました。今年の一文字は「信」です。小選挙区では敗れましたが、比例復活という形で議席を繋ぐことができ、6期17年目を迎えさせていただきました。厳しい選挙区での選挙をお支え下さった皆さまに、「明日を信じる」、「看護の力を信じる」、「自分を信じる」ということをお誓い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

今年の
一文字

理



衆議院議員

たかがい恵美子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は皆様のご信任を得て心機一転、衆議院議員としての新たな歩みが始まりました。自民党では人生100年戦略本部・女性の生涯の健康に関する小委員長、性的マイノリティに関する特命委員長に就任いたしました。これからも現場第一に思いやりと感謝の心で、未来へ夢と希望をつむぐことのできる政策の実現に精励いたします。皆様にとりまして幸多き一年でありますようご祈念申し上げます。

今年の
一文字

進



参議院議員

石田まさひろ

福島県看護連盟の皆様、あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新しい年の始まりを健やかに迎えられたことと存じます。

昨年も、看護職たちは日々、懸命に日本の医療を守って下さいました。福島県看護連盟の皆様にご心より感謝を申し上げます。コロナの第六波への不安もありますが、経口薬やワクチンの普及を迅速に『進』め、アフターコロナのスタートが切れるよう引き続き努力を重ねてまいります。

今年は参議院選挙の年です。私たちの力を結集し、看護の力を世にみせ、看護政策をより前『進』させられるよう、頑張りましょう。そして看護職が「今日も良い看護ができた!」と感じられるよう身命を賭して職務にあたります。

管理者研修「現場に必要な管理の智慧」

2021年9月17日(金) 14:00～15:30 リモート研修 参加者170名(25施設)

テーマ:「現場に必要な管理の智慧」

講 師:一般財団法人 太田綜合病院 法人看護部 看護部長 坂本美佳子先生

「智慧とは、物事を見極め判断し正しく処理していく能力のことである。」

人的資源管理・物的資源管理・財務資源管理・時間管理の視点から、実際の取り組みを通して、管理の智慧について学びました。

中でも、興味深くお聞きした内容は、人的資源管理として、年1回スタッフの意向調査をもとに、ライフスタイルに合わせた勤務体制の整備と、看護師の到達状況に合わせた教育をしているということでした。

働き方へのニーズの変化を理解し、その人の意向や個性を尊重し対応することが、モチベーションアップにもつながっていると感じました。

管理者がロールモデルとなり、自分の経験から看護を伝え、現場で看護の本質に結びつけながら、自分たちにあった勤務体制や看護方式などの変換が必要である。情報を正確に把握し、活用する力を身につけたいと思いました。(稲村)



一般研修

2021年11月13日(土) リモート研修 参加108名(30施設)

テーマ:「看護の質とは? 学び続けるとは?」

講 師:郡山看護専門学校 校長 龍川初江先生(認定看護管理者)

学び続けながら本来の自分に気づき生涯学習することで社会に参加することにつながるという事を学びました。

特に「信頼残高」というワードに惹かれました。人と人との関係で生まれる信頼を“貯めておく”という発想は、必要な時に手をかしてもらい困難に立ち向かえるという点で、“残高”を多く持たなければと思いました。

自分の看護に満足し、やりがいを持ち続け学び続けることが看護の質向上につながることを学びました。

(高橋)



医療法人やすらぎ会

いがらし内科外科クリニック

やすらぎワールドをめざして!!

医療法人やすらぎ会 チームやすらぎ在宅療養連携室

郡山の並木にあるいがらし内科外科クリニックでは、開院当初から在宅医療に積極的に取り組んでおられ、在宅看取りの中心的存在です。そして更に、質の高い連携のために、平成23年にチームやすらぎ在宅療養連携室が立ち上がりました。「チームやすらぎ」とは「穏やかな、心安らぐ人々の生活を支援するチーム」ということです。人生の終末にあっても、ご自宅でそれができるように様々な人と努力で成し遂げるといことだそうです。



地域へつなぐ受け皿として・・・

地域連携事業部 コーディネーター 渡部文江部長

在宅療養連携室の役割は、安心して在宅療養へ移行できるための「訪問支援」在宅療養・介護従事者のスキルアップ、ネットワーク強化、セミナーや研修会等の「企画運営」安心して医療・介護を受けるための相談、医療・介護従事者の困りごとの相談などをうける「総合窓口」を連携室の3つの柱としています。

郡山市の在宅医療の第一人者として活躍される渡部部長。「だれのための看取りなのか」ということを第一に考え、患者様・ご家族の思いをキャッチすることを大切にされていました。思いを汲み取り、寄り添うことへの意識を強く持つようになったきっかけは部長自身のご経験からだそうです。

それは、実のお兄様の30時間にも及ぶ大手術後に、ICUに入り1時間で亡くなられた辛いご経験です。「執刀医からの説明の時は、主治医の手があせもだらけなのを見て、何とか手術室からは出したいという医師の思いが伝わった。」と。しかし、ICU前の更衣ロッカー。他の患者さんの名前は大きくマジックで書かれているのに、兄の名前は、鉛筆書きの小さなメモのままであったこと。「兄は助からない! スタッフはそう思っているのだ。」と悲しく、その小さなメモは、集まった私達家族や友人の希望を失わせるに足る出来事でした。看護師として、家族の不安な時間や思いを汲み取って欲しかった。最後まで、傍らで家族共に、生きる希望を持ち続けてほしかった。残念な結果であったとしても、生きたかったであろう兄に心を寄せてほしかった。」そんな願いがあったとお話してくださいました。とても心に刺さりました。





白血病の24歳男性と家族の関わり

白血病を一度寛解し、再発した息子さんが「家に帰りたい」母もまた「一度家に連れて帰りたい」との思いから在宅につないだ家族について今でも印象に残っているというお話を伺うことができました。亡くなる前の深夜2時～12時までの10時間自宅で過ごすことができたそうです。このお話を伺って、たった10時間しかし本人・家族にとっては途轍もなく長い貴重な10時間だったのではないかという印象を受けました。「土台は本人の選択と本人・家族の心構え次第在宅に帰れない。理由・課題を一つ一つ掘り下げてクリアしていく事が大切。そして病院・地域・在宅で協力することで本人・家族の願いがかなったケースでした」と渡部部長さん。

ナラティブなくしてACPは無し

「患者さんが歩んできた人生・価値観・家族環境を抜きにして人生会議はできない」「その人の歩んできた物語・また最期はどう過ごすかを本人・家族とともに聴いて欲しい・寄り添って欲しいと思える後輩育成に今後力を入れていきたい」と力強く語っていただきました。地域の人困ったらずくにでも駆け込むことのできる「チームやすらぎワールド」を作っていきたいと渡部部長さん。コロナ禍でできない状況でありながらも「デジタルでの発信」「プラチナナース相談室」などできることをと奮闘している渡部部長さんには驚かされました。

取材を通しての感想

とにかくパワーと驚きと感銘を受けた取材となりました。看護はいつでもどこでもまずは「誰のためか」という事を改めて見直す機会となりました。今日の取材の機会を今後の自分自身に生かし後輩育成に繋げていきたいです。（高橋 恵子）

地域の人困ったときに駆けつけられる事業所を目指したいとも語られており、渡部部長の根本にある『人を見ることに長けている暖かいお人柄』が地域の皆様の安心感や信頼感につながっていると感じました。（三瓶）



在宅医療の道を志してキャリアをスタートさせた山藤教授は、様々なめぐり合わせから、在宅医療のみならず、外来・病棟・研修医教育・さらには感染症研究まで手がける医師人生を歩んできました。



そして、2020年10月、北福島医療センターに設置された福島県立医科大学 総合内科・臨床感染症学講座教授に就任しました。

患者と医師の関係が最も大切だと先生は言います。病院では、皆が当たり前のように患者さんに接してはいるが、既に対等な関係性ではない。しかし在宅医療を通じて、患者の自宅に行くと、病院では見られない本来の患者さんを見て感じ取ることができる。漁師だった患者さんの部屋には、船の模型や大漁旗が飾っており、どのような人物なのか一見できると共に、その人の過去を見た上で、今この人がいる事を感じ取ることができる。また地域性もあるが、人口が減って独居が増えている今、もっとも地域に入り込む支援をしなければいけないし、入院した部分だけ支えても駄目。こうした患者さんと医師との対等な関係性や地域のニーズを考えたところ、結果的に総合内科が一番だという結論に至ったと山藤先生。今後は、「何がやりたい」より「何がそこで求められるか」という視点で、日本と世界を意識して、地域で必要な事に地道に取り組んでいくと、強くおっしゃっていました。

総合内科とは

総合内科とは高齢化社会を反映して1人で1つ以上の病気を持つ人が増えている中で、複数の病気のバランスをうまく考えながら総合的に診療する専門科です。

総合内科医師が、最も注目しているのは患者さんからの話、つまり病歴聴取になります。

次にそれをヒントにおこなう診察、つまり身体診察です。そこから「臨床推論」という技術を用いて原因を解明していく専門性をもっております。何科にいったらよいのか分からない、あるいはどこの科に行っても診断がつかなかった、という場合にお役に立てることを目指しております。



山藤栄一郎教授

目の前の患者さんが、どのような生活を辿ってきたのかを意識して、コミュニケーションの中から様々な情報を引き出す努力をしているといます。積極的に患者さんに接して信頼関係を構築し、その時・その瞬間の患者さんの思いを引き出すことを心掛けている。また、最後をどう迎えたいのかという希望を大切に、看護的支援を考え関わっているそうです。

常日頃から患者さんと接しているからこそ、少しの異変にもすぐに気づけるようなコミュニケーションが大切だと話す佐藤師長。

ただ、次から次と患者さんが診察室に出入りする中で、患者さんとの時間を持つことが難しいとも語っておられました。そんな時は、連携室の出番です。自分たちが対応できなくても連携室を活用して、顔の見える関係で患者さんに接し支える病院としての仕組みを話していただきました。



佐藤春奈外来看護師長

渡辺室長の面談では、まず患者さんに話したい事を話してもらう事から始まります。その後、患者さんの生活状況を想像し、必要な時には自らの目で確認にいくそうです。また、地域包括支援センターが関わるような患者さんの場合は、センターに連絡し、「その患者さんを把握しているのか？何処までどの様な関わり方をしているのか？」を確認するといいます。将来的に患者さんが上手に地域に溶け込み医療が継続出来ていけるように、今までの暮らし方と現在、そして未来を見据えて、その時々先の先を読み行動している渡辺室長。

総合内科の医師に関しても、患者さんの病気以外に生活背景や入退院を繰り返す背景などをしっかり見てくれていると話す。患者さんを人として尊重し、生活スタイルは勿論、どんな部屋で暮らし、掃除はどの位しているのかまで把握し、患者さんの置かれている環境での生活習慣と病気の関連などあらゆる角度で診てくれているのが総合内科の先生方。

生活習慣を良い方に変える為に連携室として手助けできる喜びを感じ楽しみながら患者さんと接している、すごく元気な渡辺地域連携室長でした。



渡辺美起子地域連携室長



平野典子看護部長

取材を通しての感想

高久広報委員と稲村広報委員がどうしても行きたかった北福島医療センターさんの取材！

実は日程が合わず佐藤が行かせて頂きました。平野看護部長はじめ山藤先生・研修医の先生方・佐藤春奈外来看護師長・渡辺地域連携室長にとっても温かく迎えて頂きました。取材の録音音声から原稿を書いてくれたのは高久広報委員です。総合内科のことも、北福島医療センターのことも、皆さんに知ってほしい!!と強く思う取材でした。

(幹事長 佐藤)



看護師の給与って？

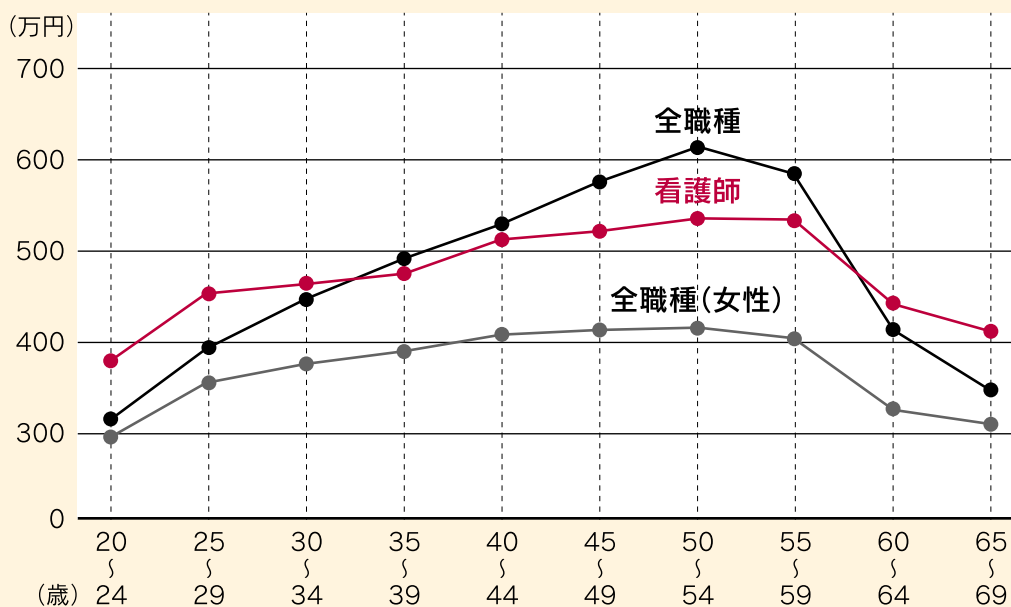
岸田総理大臣が「看護師等の収入増を図る」という方針を明言しました。

嬉しい内容ですがそもそも看護職の給与は他職業と比べどうなのでしょう？

看護職の給与は俸給表というのが関わっており20代前半では全産業平均より高いとされています。しかし、昇給の幅は他職種に比べ低く30代移行には逆転、40代前半では約7万円の開きとなり年齢を重ねるごとに開きが大きくなっているのが現状です。

現場からは「責任の重さや厳しい労働環境に比べて、給料が見合っていない」という声もありますが、看護職の待遇を改善できるのは看護職の代表だけです。是非一緒に活動し看護の現場を改善していきましょう！

■年代別看護師と全職種の平均年収



出典：平成29年賃金構造基本統計調査

Lets 選挙！

前回の衆議院選挙では福島県の投票率が10代、30代が40%代、20代が35%という結果で約半数以上が選挙に行っていないという結果でした。青年部では若手看護職に選挙への興味をもってもらえるよう活動していますが「こうなれば投票したくなる!!」といったアイデアがあれば是非とも青年部へお知らせ下さい。案はどんなものでもOK!ユニークで斬新なものをお待ちしております。

看護連HP お問い合わせ



第49回衆議院議員選挙報告

選挙
コーナー

岡山3区であべ俊子議員と、中国ブロック比例でたかがい恵美子議員が当選されました。おめでとうございます。11月19日(金)第4回役員・支部長合同会議にあべ議員がZOOM参加して下さいました。

たかがい恵美子議員のご挨拶

皆さま本当にありがとうございました。この度の第49回衆議院選挙では、比例代表中国ブロックにて無事に当選を果たすことが出来ました。衆議院議員として新たなスタートに立ちます。皆さまの期待に応えられるよう全身全霊でがんばってまいります。



あべ俊子議員のご挨拶

この度は、皆様にご支援いただき、比例中国ブロック代表として当選を果たすことが出来ました。本当にありがとうございました。皆様には感謝してもしきれません。

小選挙区で敗れたのは私自身の力不足です。自身の未熟さを地域の皆様にご指摘頂いたのだと真摯に受け止めております。比例復活し、何とか皆様に恩返し出来る機会を頂きました。初心に立ち戻り、議席の重さを噛みしめ、全身全霊で務めて参ります。



活動報告

■要望聴取会出席

12月4日(土)自民党福島県連主催「令和4年度政府予算の獲得に向けた要望聴取会」に会長と幹事長が出席し、上杉謙太郎衆議院議員、森まさこ参議院議員、県会議員の皆様には要望を伝えました。主な内容は以下の3点です。

- ①コロナ禍における看護職員等の処遇改善と対応の充実
(手当の充実・余裕ある人員配置・補助者を含めた処遇改善・AI活用での業務負担軽減)
- ②訪問看護提供体制の強化と在宅療養継続に向けた支援
(訪問看護人材確保・在宅医療の推進・医療的ケア児の体制構築)
- ③看護職員の確保と定着のための勤務環境改善
(夜勤負担軽減・看護職のハラスメント対策・被災地支援と人材確保・保健師の増員・看護師の離職対策と賃金の増額)



第12回連盟クイズ

応募
待ってるよ!



5人暮らしの家族がいました。

(父47歳 母46歳 長男23歳 長女17歳 次女15歳)

ある日、台所に準備していた夕飯がつまみ食いされてしまいました。

ただ、そのとき犯人の逃げるすがたを母は見ました。つまみ食いした犯人は誰でしょう。

犯人だと思う記号を選んで応募して下さい。(ヒント:逃げるすがた)

A.父 B.長男 C.長女 D.次女

応募方法 ● このページのQRコードからアクセスまたはハガキにて必要事項をご記入の上ご応募ください。

<必要事項> ● 1.クイズの答え 2.郵便番号 3.住所 4.氏名 5.電話番号 6.勤務先

応募宛先 ● 〒963-8871 郡山市本町1-19-8生天目ビル1階 福島県看護連盟 宛

締切 ● 2022年2月28日(月)当日消印有効

当選発表 ● 3月中に賞品を発送した上で、次号の広報誌にお名前を発表します。

※当選者は福島県内に在住または勤務の方に限らせていただきます。会員・非会員は問いません。



第11回連盟 クイズ当選者

応募総数83名

OR Off&Relax
シャンプー・トリートメントセット(2名)

BARTH入浴剤(8名)

横山 明美 増子 梨沙

伊東 三弥子 坂上 美花 井上 好恵 末永 裕子
藤井 優希 松本 春香 壽田 その香 齋藤 睦美

LINEアンフィニを
知っていますか?

皆さんはLINEアンフィニをご存じでしょうか?連盟に関するリアルタイムな情報が知れるだけでなく、占いやナース漫画もアップされており息抜きにもピッタリ!さあ今すぐ登録!



感染管理認定看護師が作った手洗いポスター (日本看護連盟、日本看護協会作成)

日本看護連盟ホームページからダウンロードできます



令和4年度会員募集中!

正会員 年会費/7,000円

しゃくなげ会員(看護職OB) 年会費/5,000円

退職後も会員の継続をお願いします。

編集後記

“一年の計は元旦にあり”という言葉があります。意味は、一年の計画は年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるには、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということです。

目標を決め、それに向けた計画を立てて、今年一年すばらしい年にしましょう。(高久秀樹)

● 広報委員メンバー

委員長/稲村 真理子(公立藤田総合病院)

委員/高橋 恵子(公立岩瀬病院)

委員/高久 秀樹(総合南東北病院)

委員/三瓶 華蓮(日東病院)